



# EARTH on EDGEコンソーシアムにおける 社会起業家人材育成プログラム開発の試み—コンテンツ開発編—

武田浩太郎<sup>1</sup>、祇園景子<sup>2</sup>、鶴田宏樹<sup>2</sup>、阿部晃成<sup>1</sup>、友淵貴之<sup>3</sup>、石田祐<sup>3</sup>、加藤知愛<sup>4</sup>、三上淳<sup>5</sup>、石井旭<sup>6</sup>  
1. 東北大学、2. 神戸大学、3. 宮城大学、4. 北海道大学、5. 小樽商科大学、6. 北海道立総合研究機構

文科省次世代アントレプレナー育成事業 2019年度共通基盤事業 レジリエント社会構築を牽引する起業家精神育成プログラム

## 復興プロセスを振り返って考える未来のレジリエンス

—神戸・東北・北海道を巡る—

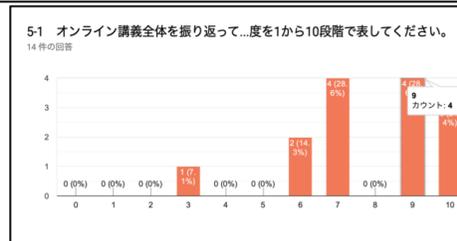
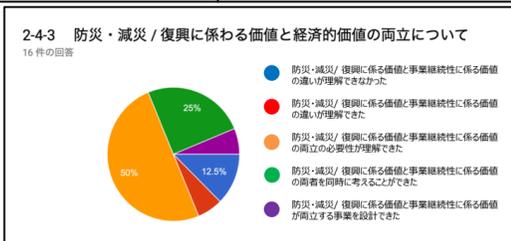
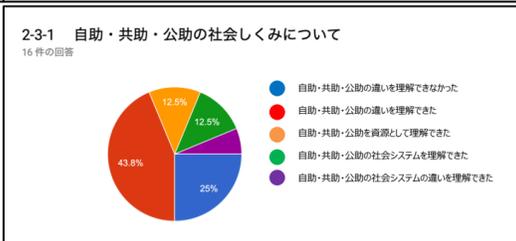
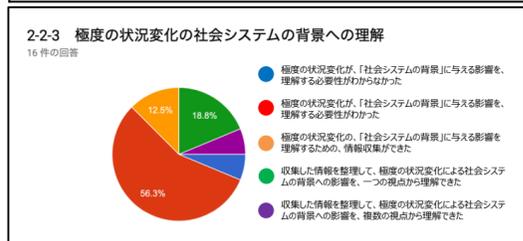
**コンテンツ開発趣旨** 受講者が、シリーズワークショップを通じて、性質の異なる3つの災害とその被災地を直接観察し、各地域における復興プロセスの時系列で検証することで、プログラムエントリー時の自らの事業アイデアをブラッシュアップできるよう、以下3点に重点をおいてコンテンツ開発を進めた：

1. 4つのスキル・マインドを体系的に学習できるよう、セッション毎にフォーカステーマを設定
2. 1に合わせて、ホスト機関/地域におけるネットワークを活用し、コンテンツリソースを開拓・調達
3. 現地視察を通じた情報収集・マインドセットの機会を設ける

実施概要	講義 (分)	現地視察 (分) ：視察先	ワーク (分)	社会システムとその脆弱性	極度の状況変化の予測	自助共助公助	社会的価値と経済的価値の両立	講義・講師
神戸セッション 9月14日-16日	260	120 人と防災未来センター	140	◎	◎	△	○	レジリエンス社会について 丸谷知巳 (北海道立総合研究機構 理事) 古文書とコンピュータシミュレーションによる液状化現象の予測 山村紀香 (人と防災未来センター 研究員) 極度の状況変化を予測する—過去の災害資料を活用した自主防災活動への支援— 松下正和 (神戸大学地域連携室特命教授) 極度の状況変化を予測する—被災者の心の動きを理解する— 齊藤誠一 (神戸大学人間発達環境学研究科 教授)
東北セッション* 10月12日-14日 *台風19号接近のため中止、代替としてオンラインセッション実施	190	250 女川町・雄勝町、大川小跡・雄勝小跡	520	○	◎	◎	△	まちづくりのビジョン 青山貴博・土井英貴 (女川町役場 産業振興課 公民室連携室、室長・主幹) 自助・共助・公助 友淵貴之 (宮城大学事業構想学群 助教) 東日本大震災から 本江正茂 (東北大学大学院工学研究科都市・建築学専攻 准教授) 女川町と雄勝町、大川小学校と雄勝小学校—社会の脆弱性、極度の状況変化— 阿部 晃成 (東北大学課外ボランティアセンター 研究員)
オンラインセッション 10月14日	220	0	0	○	○	◎	△	自助・共助・公助：友淵 貴之；東日本大震災から：本江 正茂 女川町と雄勝町、大川小学校と雄勝小学校—社会の脆弱性、極度の状況変化—：阿部 晃成
北海道セッション 11月2-4日	190	270 安平町・厚真町	270	○	○	◎	◎	義を見て為ざるは勇なきなり—前にすすむ力— 井内聖 (安平町復興ボランティアセンター/ はやきた子ども園校長)
神戸+オンライン+北海道	670	390	410	-				合計 1470分 (セッション平均490分、1日平均 約8時間)

## アンケート調査結果 (抜粋、オンラインセッション終了時点)

項目	アンケート結果	備考
社会システムとその脆弱性 極度の状況変化とその予測	定義やその必要性への理解度は非常に高かった	神戸セッションのメインテーマであり、事例を元にした抽象度の上げ下げを含めて、緻密な学習設計がなされていた。
自助・共助・公助	急ごしらえのオンライン講義だったものの、理解度・満足度ともに高かった	被災者・被災地での活動実践者による生の声のインパクトが大きかった。
社会的価値と経済的価値の両立	定義やその必要性への理解度は非常に高かった	最終目標である事業モデル立案に必須であるため、受講生の意識が高かった。



## 今後の課題

項目	受講者の声、スタッフの感想等	対応策
学びのデザイン見直し	・講義による情報量が多かった ・グループワークと個人ワークの位置付けがよくわからなかった	・時間配分を見直し ・演習によるフレーム理解と個人ワークの区別を明確化 ・オンラインを活用した講義形式の導入検討
レジリエンスの概念のインプット	平時/有事を俯瞰する時間概念の理解が不足	・学習時におけるコアコンセプト図のさらなる活用 ・社会システムに掛かる情報インプットの際の事例の多様化
地震/津波以外の自然災害の事例収集	エントリー時のアイデアが地震/津波/避難所対策に集中	事例のさらなる収集と類型化したフレームの提供

お問合せ先

EARTH on EDGEコンソーシアム (東北大学 大学院工学研究科 EDGE-NEXT事務局)

TEL : 022-795-5658

E-mail : edge-resilience@grp.tohoku.ac.jp

HP : http://edge-next.eng.tohoku.ac.jp/